

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)会議概要

1	審議会名	令和3年度 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)
2	日 時	令和3年6月29日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	豊科交流学習センター「きぼう」 2階多目的交流ホール
4	出席者(委員)	中島完二委員長、岡村紀子副委員長、細田直稔委員、福嶋子真委員、東稔丈委員、久保田敏彦委員、中田平男委員、津村孝夫委員、藤原光弘委員、松本遊穂委員、古田然委員、丸山昌則委員、小原太郎委員、召田洋一委員、平田米子委員、小林みずき委員、岡村公夫委員、小池晃委員、古幡栄一委員(19人/23人中)
5	市側出席者	赤澤農林部長、山崎農政課長、小林農政課長補佐兼農業政策係長、布山生産振興担当係長、中村農村振興担当係長、小林農村振興担当係長、農業政策係高野副主幹、水谷市農業再生協議会事務局次長、大月耕地林務課長補佐兼耕地担当係長、小川耕地林務課長補佐兼林務担当係長、浅川耕地担当係長、高木農業委員会事務局長、藤原農業委員会事務局次長
6	その他出席者(計画策定コンサル)	特定非営利活動法人 SCOP 跡部嵩幸研究員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和3年7月7日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会(岡村副委員長)
- (2) あいさつ(中島委員長)
- (3) 自己紹介(新任委員)
- (4) 協議事項
 - ア 第2次安曇野市農業・農村基本計画に係る点検及び評価について
 - イ これまでの経過と今後の計画策定までの流れについて
 - ウ 第3次安曇野市農業・農村振興計画 骨子案について
- (5) その他
- (6) 閉会(岡村副委員長)

2 協議事項

- (1) 第2次安曇野市農業・農村基本計画に係る点検及び評価について

【主な意見・質問等】

委員：第2次計画の総括の点検・評価結果資料を見たところ、「守る」について、農地が荒廃しているのではこのような対策を行うということになると思うが、指標が人、面積、区画、回数とバラバラなので、面積で統括して管理していけば課題に対して施策の成果が管理しやすいのではないかと。

事務局：いただいた意見は第3次計画に反映したい。

委員：小中学校の給食の米が、100%地産地消であるのは今までの成果。第3次計画で一歩進めるとすると有機米、有機農産物の導入に向けて研究していく、整備をしていく等の目標としたらどうか。

事務局：有機の関係は費用面での問題がある。今後の検討課題としていく。

委員：「ブランド力の強化」の取組みとして、お米の場合、「風さやか」をオリジナル

米としてPRして好評だということだが、今後の温暖化に対して強い米なのか、味、作付面積比率がどうなっているかを知りたい。

事務局：手元に資料が無いので、次回の会議で回答する。

委員：「風さやか」を食べてみたいと思っているが、近場で見ることがない。

委員長：ハイジの里で販売している。評価が分かれているようなので、今後、意見をまとめて実態をつかんでいきたい。

委員：「守る」の後継者・新規就農者の確保・育成について、私が地元の後継者たちと話す中で感じているのは、後継者たちの意識ではなく、継がせる側（父ちゃん、母ちゃん）の意識改革の重要性である。若手の意見を何も受け付けないような親の元では何もできないということが往々にしてある。継がせる側の意識改革を市からも取り組んでもらえれば、事業承継しやすくなると思う。

事務局：市長からも後継者対策が必要と言われている。計画を策定する上で、新しい農業者を確保することに頭がいきがちだが、今の意見は新鮮だ。第3次計画に盛り込むように考えたい。

委員：「部門別振興方針」の米穀類について、米のブランドは、安曇野米ではなく長野県産米で販売される。安曇野でなく長野県というのではブランドとして弱いと思う。「風さやか」を作っているが、安曇野産「風さやか」として出すことができない。味が美味しくて好きで作っていても、「風さやか」の価格が安いという現実があるので、コシヒカリから変える事が難しい。「風さやか」で儲かるように価格を上げて、PRすれば盛り上がる品種だと思う。今は作付けも1割程度しかされていないが、今後、温暖化でコシヒカリの高温障害等が出るリスクを考えれば、「風さやか」に切り替えていくことは十分あり得ると思うので、戦略を練ってほしい。

委員長：「風さやか」については、現在JAで「風さやか」の苗を販売していない。JAで販売することはできないか。そして、品質を上げていけば、価値が出てくると思う。

事務局：JAが絡む問題なので、話をして検討していく。市として取り組めることは第3次計画に盛り込んでいく。

委員：(JAの立場で)JAでは、苗については生産者の希望を取りまとめたうえで、組合員等の出資で作った育苗施設で育てている。既にコシヒカリ、餅、飼料等、複数の品種を育てており、品種が増えるほど管理が難しくなるため、絞らざるを得ない。希望はあっても数千枚集まらないとラインを切り替えるのは難しい。種もみは扱っているのでも、自身で育苗する人には供給ができる。また、ライスセンターでの受け入れ段階でも問題がある。コシヒカリと「風さやか」が重なると混ざってしまうため、受け入れが難しい。一方で、コシヒカリには高温障害問題があり、「風さやか」は収量が多いという特徴があるので、魅力的な品種だと思う。

(2) これまでの経過と今後の計画策定までの流れについて

(3) 第3次安曇野市農業・農村振興計画 骨子案について

【主な意見等】

委員：農業の法人化、大規模化、6次産業化、スマート農業等が進んできているが、担い手の若者が稼げないため、一旦就農しても離農するということが起きている。稼ぐ農業を重点的に考えて欲しい。

事務局：第3次計画に盛り込みたいと考えている。

委員：「稼ぐ」に関して、以前、給食で有機米が1度出されたが、これを月1回程度の頻度で続けてもらえれば有機農家が生活していける。高い意思をもった方たちが生きていける環境が、給食のできるのであれば、良いと思う。

委員：ロードマップの作成について、今後決められた計画は市民に開示されるのか。

事務局：市民に広報を通じてお知らせし、HPでも公開する。

委員：市が目指す姿を市民が共有できるように、気軽に読める概要版があれば良いと思う。

事務局：本体計画とは別に概要版を作る予定。概要版は市民が分かりやすいように、イラスト等を入れながら作りたい。ロードマップについても見やすい形にしていく。

委員：「守る」のところで、自給的農家は今まで重要視されていなかったが、全国的にも世界的にも家族農業、小規模農家が見直されている。一般市民まで理解が広がっていないが、農地や景観を守っている。稼ぐことは大事だが、稼がない人も田園風景を守っている。小規模農家に対しての、市の具体的な取組を明らかにしてほしい。私自身、小規模な有機農業を続けているが、増えていく様子はない。有機農家は稼いでいないし、兼業で生活している。そのため、支援の対象からは外される傾向がある。今回、施策のターゲットに自給的農家を取り上げられていることはとても良いと思う。今後の進み方に期待しているし、協力したいと思っている。

委員：全体的に分かりやすく課題がまとまっている。その中で、水路等の農業社会資本の更新も重要だと思うので、施策の中に組み込んでほしい。

「風さやか」の話題で出てきたが、温暖化や集中豪雨等、気象に大きく影響されるのが農業なので、その対応（品種切替等）を施策に盛り込んでほしい。

GAP、SDGs、HACCPは必須だと思う。安心・安全な農産物を提供していく上で、必要なコストである。市としてどう取り組みながら普及するかを、盛り込んでほしい。

委員：昨年、7～8月に出された意見をまとめた資料があるが、これは第3次計画に反映されるということでしょうか。

事務局：それらに加えて、これまでお示ししているアンケート等の各種データを踏まえて第3次計画を策定する。

委員：有機農業について、ニーズは高いのに伸びない、生産者も少ないと書いてある。有機農業が儲かるようにしなければならないと思う。出荷先がJAということであれば、市とJAが連携してやっていかなければならない。実際にやっている中では収量が半分という方もおり、技術の確立が必要。販売先も重要で、JAが受け皿となり、指導しながら契約栽培できれば、オリジナルの有機ブランドとして販売できるのではないかと。一定品質を確保すれば認定マークを付ける等、安曇野有機米として稼げるようになると良いのではないかと。

委員：荒廃地の管理を依頼され、復旧の補助金を調べたら、10a当たり5万円の給付金があるとのことだったが、ワサビは該当しないと言われた。そのため、現在保留にしている。5万円でも到底足りないが、有るとありがたい。ワサビについてはどう考えているのか知りたい。

事務局：場所が特定できないので正確には回答できないが、可能性としては、地目上農地でない、農業委員の調査の中で荒れ方がひどくて農地として認定していない、

といったことが考えられる。復旧できるのであれば、復旧していただきたいので、農業委員会と相談しながら、補助金の額も含めて検討したい。

委員：担い手と農地集積について、市外からも農地を求めに来るケースがあり、集積を難しくしているのではないか。

担い手に関して、新規に雇用した穂高の方で、独立したいが1ha程度の田しかなく、集積もうまく進まず、専業は親にも反対されているというケースがある。将来的には、農業法人で働きながら、自分の耕作をするというあり方もあるのではないかと考えている。

地域には設備や農業機械が無い方もいるので、法人が受け皿になって貸し出すとか、特別な苗は法人のハウスで育苗して提供するということも考えられる。

委員：骨子案の中で、部門別振興方針について、出荷額1億円以上の農産物に絞るとあるが、絞る理由は何か。

事務局：趣旨としては、規模の大きなものから優先付けをして、戦略化していくということ。一方で、多様な営農形態があるという安曇野市の特徴もあるので、くくりについては今後さらに検討したい。

事務局：第3次計画での部門別方針の位置づけについては、次回案を提示したい。

委員：策定方針で多様な営農形態があるとうたっている以上、取り扱いを考えてほしい。安曇野には、規模は小さくても特徴的な物もあるので、振興作物はお金のくくりだけでなく、残していかななくてはならない作物という観点も残して欲しい。

委員長：以上で議事を終了します。

以上